

## 高い理想かもしれないけど

令和三年度が始まりました。立場の新鮮さ、出会いの新鮮さが引き金になり、どの生徒もやる気をもって初日を迎えたようです。三年生に至っては、前日の入学式準備と校内清掃から、やる気が姿となって表れていました。

体育館のフロアにシートを広げ、美しくいすを並べる生徒たち。目立つところを中心に、丁寧に掃き掃除をする生徒たち。風に舞う落ち葉に苦戦しながら時間をかけて落ち葉を集める生徒たち。久しぶりに、生徒たちのひたむきな姿と明るい声が学校にもどってきました。

そんな中、この日が入学式準備だと忘れていた生徒がいました。姿のない生徒には、旧二年職員が電話をかけ、状況を問い合わせていました。電話をもらった生徒の中には、恐縮して慌てて駆けつける生徒もいました。一回の失念で、「最上級生としての自覚が足りない」と判断してはかわいそうです。ここに「子どもっぼさ」が出ていると私は思いました。

また、久しぶりに会い、積もる話もあったのでしよう、手よりも口の方がよく動いていた生徒もいたようでした。これもまた「子どもっぼさ」だと私は考えています。中学生は半分大人で半分子ども。私にとってはほほえましい姿に映りました。

高い理想かもしれませんが、「ここに生徒たちの『主体性』が生まれなかなあ」と私は思いました。入学式が学校行事である分、ついつい教師主導で生徒を集め、指示を出して、取り組ませます。それがこれまでのやり方です。だれも疑うことなく、入学式準備はそういうものだと思ってやっています。

「入学式の準備は四月六日ですか。詳しいやり方は先生方に指示していただくとして、今回は私たち生徒が中心となってやってみたいと思うのですが。いかがでしょうか。」

こんな声が生徒の中から生まれたら最高ですよね！前年度のうちに見通しをもって自分たちで考え判断し、参加を呼び掛ける動きが出ていたら、参加する意識も違ってくるのではないでしょう。これこそ「主体性」の理想形だと言えるでしょう。

これまで当たり前だと思っていたことを、よくよく考えてみると、そこに「主体性」が発揮できるヒントが隠されているような気がします。逆にいうと、当たり前だと思っていたことを当たり前前に受け止めていたら、「主体性」が発揮されることはまずありません。「主体性」の芽は、なかなか手が届かない遠いところにあるのではなく、普段当たり前前にやっている身近なことの中にあるような気がします。

年度始めに高い理想から話しましたが、今の北中なら不可能ではないと思っています。一気にそこまで到達しなくても、着実にその理想に近づいていくことを期待したいと思います。

(四月七日 記)